

「森里川海をつなぎ、支えていくために（提言）」 中間とりまとめからの主な変更点

基本的な方向性は変えず、以下の新たな方向性やアイデアなどを追加した。その他、一部、文言の修正・追加を行った。

○COP21 で採択されたパリ協定に目線を向けることが必要

パリ協定の目標達成に向け、時代に逆行することなく、自然の恵みを有効に活用した低炭素・脱炭素なライフスタイルへの転換が必要

○海外に依存する暮らしからの脱却

日本はかつて、燃料・食料・資材の多くを、里地・里山・里海から得てきた。国内の自然資源を持続的に、かつ有効に活用していくことが自然の恵みをより大きくし、生態系の保全にもつながっていく。

○流域圏を意識した森里川海をつながり確保の取組

流域管理という視点をいれ、生態系サービスのトレードオフに留意し、森里川海の流域のつながりがもたらす多面的な効果効能を総合的に考えていくことが必要。

○自然と共生した暮らしと日本の自然観を取り戻す

日本の文化は、自然との調和を基調として成り立ってきた。自然と共生した暮らしや、日本社会の根底に流れる日本の自然観、自然を守ってきた風土に根差した信仰心を再認識し、次世代につなげていくことが必要。

○ストック浪費型からフロー調和型のライフスタイルへの転換

これまでの地域資源浪費型から、自然資本を始めとしたストックの維持・再生を図りつつ、これらの恵み（フロー）を活用した経済を目指し、環境・経済・社会の課題を統合的に解決しながら、低炭素・資源循環・自然共生の社会を同時に達成していく。

○未来に向けた森里川海で拓く成熟した社会づくり

再生可能エネルギーの活用による地域経済の循環、個性ある風土づくりによる交流人口の増加、安全・安心な衣食住の確保など、森里川海とつながるライ

フスタイルを実現し、新たな未来を描いていくことが必要。

○具体的な取組アイデア

森里川海を保全・再生し、つなぎ直す「地域の自発的な草の根」（8つの地域プログラム）、この取組を支援する「実現に向けた仕組みづくり」、その仕組みを支える「ライフスタイルの変革」（3つの全国プログラム）に整理。

（1）地域の草の根の取組

- ・ 「森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム」「森里川海とつながるライフスタイルの転換プログラム」を「ライフスタイルの変革」の全国プログラムに位置づけ
- ・ 新たに「自然資本を活かした健康で心豊かな社会づくりプログラム」を追加。

（2）実現に向けた仕組み

- ・ 環境・社会・経済などの各分野や地域の様々な取組を統合し結びつけるプラットフォームとして「森里川海循環共生協議会」の設置を提案。
- ・ 資金や労力を確保する仕組みとして、「地域創造ファンド」の創設等を提案
- ・ 経済活動の中で森里川海の手入れがなされる仕組みを目指した経済的アプローチ

（3）ライフスタイルの変革

- ・ このような仕組みを長期的な目線で支えるため、暮らしの中で自然の恵みを意識し、その持続的な利用を日常のライフスタイルに組み込むことが重要。
- ・ 上記（1）の2つのプログラムの他、「森里川海の恵みの見える化プログラム」を追加。